

## □ トピック □ ジカ熱

最高気温が30℃付近まで上がる日も増え、夏本番も間近となりました。半袖等で肌の露出が多くなり、蚊に刺されやすくなる時期でもあります。近年、日本ではヒトスジシマカ等が媒介するデング熱が話題になりましたが、リオ五輪を控えた昨年からは、ジカ熱が南米などで流行しています。ジカ熱はデング熱と何が違うのでしょうか。

共通点としては、媒介する蚊の種類、予防接種等がまだ開発されていないこと、基本的にどちらもヒト-ヒト間での感染はないこと、感染しても多くの方は症状が出ないこと(不顕性感染)などが挙げられます。一方、異なる点としては発症時の症状が代表的です。デング熱は突然高熱が出ますが、ジカ熱では高熱が出ることはありません。ただし、妊婦がジカ熱に感染した場合、小頭症児が生まれる可能性が高くなるとされています。大きく報道もされていたように、デング熱は日本国内での感染例がありました。現在のところジカ熱は輸入症例(海外で感染、帰国後発症)のみとなっています。日本国内に限定すれば、今のところ蚊による感染症の媒介はほとんどないと言えますが、そのリスクは確実に高まっており、今後も絶対に起こらないとは言いきれません。

感染症予防のためにも、今のうちから蚊に刺されないような対策を行いましょう。

ヒトスジシマカの成虫(上)  
と幼虫(下)

## □ お知らせ □ 蚊を含む飛来侵入虫の対策

蚊に限らず、この時期は排水や敷地内外の緑地から多くの昆虫が発生します。これらの虫を工場や店舗に入れられないために、まずは緑地の剪定や雑草地の管理等によって発生や潜伏のしにくい環境を整備することが不可欠ですが、それだけで虫の発生や侵入を防ぐことは難しく、実際には効率的な駆除のために、薬剤処理を行うことも多いのが現状です。

それでも建物の中に入ってしまった虫に対しては、薬剤のスポット的な散布を除くと、ライトトラップ等で捕獲するといった物理的な方法に限定されてしまいます。そこでお勧めしているのが、「ウルトラベープPRO」という蒸散剤です。気化しやすい薬剤を風で放出し、煙や臭いといった薬剤の存在を感じることなく効果を発揮します。さらに、ご家庭で使われている電気蚊取りと比べて薬量が多く、家庭用よりも強力に虫を駆除します。本体は電池式、薬剤はカートリッジ式となっており、初回の設置以降のメンテナンスは約2か月に1回の電池とカートリッジ交換のみなので、設置場所が限定されることもありません。特に、ある程度の密閉性が確保されている前室での使用が有効で、そこから続く重要区域への侵入・分散を大幅に減らします。薬剤成分が人を含む哺乳類に影響を与えることはほとんどなく、実際に工場の一般区や飲食店・小売店等でも利用されている安全性の高いものです。また、適切な場所に設置すれば、飛来侵入虫以外にもムカデやクモといった歩行侵入虫に対しても効果が期待できます。

防虫対策では、基本的にはそれぞれの虫の生態や特徴に合わせたものが必要となることが多いですが、とにかく虫を減らしたいといった場合には、このような方法が効果を発揮することもあります。幅広い虫の侵入にお困りの場合は、ぜひ一度弊社にご相談ください。

ウルトラベープPRO  
本体と薬剤カートリッジ

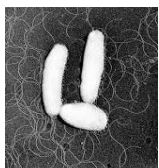
	設置目安
屋内	30~60畳/台

## □ 豆知識 □ 刺身に潜む危険

気温や湿度が高くなるこの時期、食品のカビ・食中毒には一層の注意が必要です。毎年冬場に流行することが多いノロウイルスとは対照的に、近年は発生件数が減ってはいるものの、発生が夏に集中する食中毒菌があります。それが「腸炎ビブリオ」です。

この菌は、分類学上はコレラ菌等と同じ *Vibrio* 属に属していますが、生育に塩分を必要とする点が大きな特徴であり、15℃以上の海水やそこに生息する魚介類の体内で活発に増殖しています。特に至適環境下では、一つの細胞が二つに分裂するために要する時間はわずか約10分です。この菌を初めて発見、分離したのは日本の研究者であり、以前は魚の生食文化がある日本や東南アジアの一部に特有の食中毒とされてきました。魚介類以外にも、調理器具等を洗わずに使用したことによる交差汚染が原因で、漬物等比較的塩分の多い食品でも発生します。タンパク質の分解能力が弱いので、菌が大量に増殖していても見た目や匂いはあまり変わりません。

発生件数が減少してきた背景には、真水での洗浄や冷蔵、酢×等ビブリオが生存できない条件の徹底があります。報道等で見かけることは少なくなりましたが、改めて生魚をはじめとする食材の調理や温度管理には、細心の注意を払うようにしましょう。



腸炎ビブリオ菌



総合衛生コンサルタント・生物害防除

東洋産業株式会社

URL: <http://www.to-yo-s.co.jp>

本社：岡山県岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL(086)241-8080 FAX(086)241-8094

拠点：大阪、姫路、岡山、倉敷、福山、広島、高松、松山  
関東(市川)